

2024年度厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
分担研究報告書

障害者ピアサポート研修の実施内容の検証及び更なる効果的な実施方法の確立に向けた研究
(24GC1004)研究代表者 岩崎 香

分担研究:フォローアップ研修の見直し及びピアサポートの専門性担保の仕組の検討

研究分担者

宮本有紀 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 精神看護学分野

研究協力者(五十音順)

秋山 剛 NTT 東日本関東病院
秋山 浩子 特定非営利活動法人自立生活センター日野
安部 恵理子 国立障害者リハビリテーションセンター
飯山 和弘 社会福祉法人じりつ
五十嵐 信亮 竹田総合病院
井谷 重人 CIL 星空
市川 剛 未来の会
一木 崇弘 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座
岩上 洋一 社会福祉法人じりつ
内布 智之 一般社団法人日本メンタルヘルスパイアサポート専門員研修機構
太田 令子 千葉県千葉リハビリテーションセンター
小笠原 啓人 一般社団法人北海道パイアサポート協会
門屋 充朗 特定非営利活動法人十勝障がい者支援センター
彼谷 哲志 特定非営利活動法人あすなる
桐原 尚之 全国「精神病」者集団
小阪 和誠 社会福祉法人ソラティオ
齊藤 健 社会福祉法人豊芯会
栄 セツコ 桃山学院大学
佐々木 理恵 東京大学 医学系研究科 医学のダイバーシティ教育研究センター
島津 渡 株式会社真和
四ノ宮 美恵子 東京リハビリテーションセンター世田谷
平良 幸司 公益財団法人横浜市総合保健医療財団
田中 洋平 社会福祉法人豊芯会
堤 愛子 特定非営利活動法人 自立生活センター町田ヒューマンネットワーク
土屋 和子 NPO 法人市民サポートセンター日野
中田 健士 株式会社 MARS
永森 志織 特定非営利活動法人難病支援ネット・ジャパン
橋本 早苗 社会福祉法人豊芯会
蛭川 涼子 特定非営利活動法人自立生活センターSTEP えどがわ
又村 あおい 一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会
三原 睦子 一般社団法人ヘルスケア関連団体(VHO-net)
三宅 美智 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
森 幸子 一般社団法人日本難病・疾病団体協議会
矢部 滋也 一般社団法人北海道パイアサポート協会

研究要旨:

本研究は、自治体が障害者ピアサポート研修事業をより効果的に実施するために、2020年度より開始された障害者ピアサポート研修の研修カリキュラムの改善点を取りまとめ、提案を行うことを主な目的としている。中でも本分担研究は、フォローアップ研修に焦点をあてる。厚生労働省の「障害者ピアサポート研修事業実施要綱」に示されているフォローアップ研修をどう位置付けるのかを検討するための材料とし、今後の障害者ピアサポート研修事業の推進に寄与することが目的である。

分担研究として、2024年度はまず、研究協力者によるフォローアップ研修の方向性の検討を行った。

フォローアップ研修を実施している自治体等へのヒアリング調査を今後実施する予定であり、今後フォローアップ研修の位置づけを検討する際には、ピアサポーターの専門性を担保し高めるための仕組みとなることを意識して検討するよう留意する。

本研究は、さまざまな障害を有する人々やその所属団体、自治体など多くの関係者の協力を得て行った。

A. 研究の背景

障害福祉サービス事業等において、障害当事者が職員として雇用され、地域移行や地域生活の支援にかかわることは、当事者主体の実践を促進する重要な取り組みである。その一助となる仕組みの一つが、障害者ピアサポート研修事業である。

本研究事業「障害者ピアサポート研修の実施内容の検証及び更なる効果的な実施方法の確立に向けた研究」は、自治体が障害者ピアサポート研修事業をより効果的に実施できるよう、2020年度より各自治体での開催が開始された障害者ピアサポート研修のカリキュラムについて、改善点を取りまとめ、提案を行うことを主な目的としている。

障害者ピアサポート研修事業は、これまで障害者自身や関係者の尽力により、全国各地の自治体で広く実施されるに至っている。さらに、多くの研究協力者の支援を得て、代表研究者の岩崎、分担研究者の宮本は、障害者ピアサポート研修事業が効果的に運用されることを目指し、以下のような取り組みを進めてきた。

(1) 障害者ピアサポートの専門性を高める研修の開発

実際にピアサポーターとして、あるいは当事者運営組織で活動する障害当事者（以下、当事者）と協働し、「障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修」の開発を行ってきた。この研修は、基礎研修、専門研修、フォローアップ研修で構成され（岩崎ら、2017）、現在の障害者ピアサポート研修事業においてもその枠組みが活用されている。

(2) 研修テキストおよび養成プログラムの作成

基礎研修、専門研修（精神障害版）、フォローアップ研修（精神障害版）のテキスト、ならびに基礎研

修のわかりやすい版テキスト、講師・ファシリテーター養成プログラムが作成された。特に、ファシリテーター養成においては、研修の目的、ピアサポートの理解、ファシリテーター概論、ピアサポート研修特有のファシリテート技法、グループワーク運営、研修運営や講座設計、研修まとめの項目を取り扱うことが重要であることが示されている（岩崎ら、2019）。

(3) オンライン研修・ハイブリッド型研修の試行

COVID-19の影響を受け、当初対面を前提に設計されていた研修を、オンラインやハイブリッド方式で実施する方法が試行された。これに関して、感染リスクを下げつつ移動負担を軽減できる利点、対面グループワークの重要性が報告されている（岩崎ら、2021）。

(4) 合理的配慮と運営ガイドブックの整備

多様な障害のある人たちが参加しやすいよう、合理的配慮に関する指針がまとめられ（岩崎ら、2023）、また、自治体が障害者ピアサポート研修事業を円滑に運営できるよう、「障害者ピアサポート研修事業ガイドブック」が公開された（岩崎ら、2024）。あわせて、研修シラバスや障害統合版の専門研修・フォローアップ研修テキストも作成されている。

こうした取り組みがなされる中、障害福祉サービス等報酬改定では、ピアサポート体制加算およびピアサポート実施加算が導入された。障害者ピアサポート研修の受講は、これら加算の要件となっていることから、効果的な研修の実施はますます重要になっている。

現在、加算要件に含まれるのは、基礎研修および専

門研修であり、フォローアップ研修は必須ではない。しかし、障害者ピアサポート研修は基礎研修・専門研修・フォローアップ研修の一連のプロセスとして設計された経緯があり、フォローアップ研修の受講によって学びがさらに深まることが期待されている。

一方で、予算面などさまざまな要因から、フォローアップ研修を十分に開催できていない自治体が存在することも把握されている。

このため、本研究では、障害者ピアサポート研修のうち、特にフォローアップ研修に焦点をあて、その意義や現状について整理することとした。それに加え、基礎研修、専門研修のカリキュラム見直しに合わせてフォローアップ研修のカリキュラムも見直し、効果的な障害者ピアサポート研修が開催されるための検討材料とすることにした。

まず2024年度は、障害者ピアサポート研修に関わっている身体障害領域、精神障害領域、高次脳機能障害領域、難病領域の障害当事者や支援専門職者に現行のフォローアップ研修に対する意見を聴取し、集約することとした。

B. 研究目的

本研究の目的は、自治体が障害者ピアサポート研修事業をより効果的に実施できるよう、特にフォローアップ研修に焦点を当て、その位置づけや意義を検討することである。

C. 方法

(1) 障害者ピアサポート研修に関わってきた研究協力者からのフォローアップ研修に関する意見の収集

障害者ピアサポート研修に関わってきた身体障害領域、精神障害領域、高次脳機能障害領域、難病領域の障害当事者や支援専門職者である研究協力者にフォローアップ研修についての意見を収集した。

具体的には、フォローアップ研修の研修内容を掲示し、それら個別あるいは全体に対して意見を自由に記入してもらい、あるいは会議の際に述べてもらう形式とした。記入は、研究者の準備したオンライン上の書き込みシート、あるいはエクセルファイル、あるいはメールの、いずれでも回答者が便利なものを選択して記入してもらった。欄の大きさや把握のしやすさを考慮し、障害領域ごとに書き込み欄を用意した。意見は、個人の回答でも、とりまとめて回答でもどちらでも構わないと伝

え記入を依頼した。

2024年8月から2025年3月の会議まで、いつでも自由に意見が追加された。

D. 結果

身体障害領域、高次脳機能障害領域、精神障害領域、難病領域の全ての障害領域からフォローアップ研修に関する意見を得た。障害領域によっては意見を取りまとめた回答もあれば、個人が自由に書き込んだ回答もあった。

以下に、意見を掲載する。身体障害領域は(身体)、高次脳機能障害領域は(高次脳)、精神障害領域は(精神)、難病領域は(難病)と記すこととする。

(1) フォローアップ研修全体に対して

フォローアップ研修全体に対して、基礎、専門を振り返る研修とするといよいのではないか、何を目的とした研修か、ねらいを検討しそれに合わせた内容や時間構成を検討する必要があるのではないかという意見があった。

(ア) フォローアップ研修の位置づけに関する意見

フォローアップ研修は、新しいことを学ぶ場ではなく、基礎・専門を振り返る(深掘りする)研修であることや、どこのコマを再度扱っているかわかるような講義にした方がよいのではないか。(身体)

自治体によっては、(事業所に雇用されていない)個人の参加者が多く、(雇用されて働く障害者ピアサポート研修という)ねらいとずれているような気がする。(身体)

フォローアップという意味では、2日間だけで終わりなのだろうか…その後、現任研修のようなことができるようにつながっていくことが必要なのかも。(精神)

(フォローアップ研修の位置づけとして)組織作り、地域作り、地域のネットワーク作り(などが考えられる)。(精神)

内容的に、法制度の理解であったりコミュニケーション技法であったりと、内容が高度化している。

知的・発達障害領域においては、このように高度化した(難しい)内容を盛り込むのであれば、まず研修内容そのものを理解してもらう必要がある。(全体会議での集約)

(イ) フォローアップ研修の開催実態に関する意見

自治体によってはフォローアップ研修を1日で実施しているところもある(加算対象が基礎、専門なので)(精神)

自治体によっては、基礎、専門と受けてきた受講者が、フォローアップ研修で参加者が3分の1に減った(加算要件ではないため)。フォローアップ研修まで連続して受けてもらえる仕組みがあれば。(精神)

(ウ) フォローアップ研修の内容や時間に関する意見

相談支援専門員の中で研修を受けているピアサポーターが結構いるが、違う感覚を持ち帰ることができる内容を盛り込みたいという思いはある。フォローアップ研修で他の団体の取り組みなどを紹介して、(この研修以外にも)研鑽の機会があることを伝えたい。(精神)

フォローアップ研修全体としての時間が長いのではないか。(時間が長いため、朝や夕の通勤ラッシュ共重なり)車椅子ユーザーは来るのが大変なのではないかと思う。(精神)

フォローアップ研修を短くすることは賛同できない。削るよりも、もっと伝える必要があるのではないか、ブラッシュアップしていく、学ぶ機会を奪うと困るのはピアサポーターなのではないか。(精神)

しっかり学ぶことが(現場とのギャップを感じさせてしまい)離職につながる気もする。(研修時間を)極端に減らすのは難しいが、ピアカウンセリングみたいなものをしっかりとワークショップのような形でやってみたいとか、ピアサポーターが自分たちのルーツを確認するようなものなどをやってはどうか。(精神)

(エ) その他

(研修で用いられている)スライドの画素数が悪く、文字数が読みにくい(精神)

(2) 現在のフォローアップ研修の各单元に対して

1) 専門研修の振り返り

これまでの振り返りを丁寧にするには時間が足りない、アイスブレイクとして使うのも良いのではないかと、という意見があった。

シラバス上は「これまでの振り返り」となっているが、30分で基礎・専門を振り返るのは無理があるのではないかと。専門研修のみに焦点を当てるか。基礎研修を振り返るなら、科目の変更が必

要か。(精神)

自分の関係する自治体の研修では自己紹介の時間としても使っている。アイスブレイクのような時間であるが、タイトルではアイスブレイクというように受け取ってもらえない面がある。(精神)

2) 障害特性(障害領域ごとの障害特性)

(ア) 基礎研修で扱われている講座との区別をつけることに関する意見

基礎研修と差別化するためにタイトルを変えた方がよい。それぞれの障害特性が社会でどのような生きづらさがあるかを伝える内容になっているため。(身体)

基礎研修での講義と、フォローアップで取り上げる内容の違いを整理(難病)

基礎研修講座3)と被る部分が多く、年内に基礎・専門・フォローと行う場合、削っても良いかもしれない。(精神)

(イ) 内容に関する意見

フォローアップ研修を現任者研修(すでに障害者ピアサポートを実施している人のための研修)と扱う場合は、基礎研修と違った内容にしてはどうか。(精神)

発達障害は独立して入れて欲しいという意見あり。テキスト内にポイントをまとめ、スライドに落とし込めるようにするのはどうか。大前提として病気や障がいはその人のほんの一部であることも添えると良い。(精神)

3) 働くことの意義+演習①(ピアサポーターとして職場にもたらす効果)

働くことの意義を考えることを職種を問わず考えることの重要性と、ピアサポーターがいることの意義を考えることの重要性に関する意見があった。

(ア) 働くことの意義を考えることについての意見

働くことの意義はきちんと書くべき。(精神)

働くことの意義はピアサポーターということが重要なのではなく、自分自身をみんなが考えようという演習なのではないか。(精神)

(イ) ピアサポーターがいることの意義についての意見

これまで専門職主導でおこなってきたものを支援者が支援したいように支援するのはおかしいので、ピアサポーターが一人でもいることの意

義が大きいことを示すことは大切。(精神)

研修を受けたピアサポーターが存在することにより、当事者も働き甲斐を感じ、職場としてもピアが働けるような環境を整備することの重要性などが把握してもらえるようにしたい(難病)

職場環境整備の必要性が伝わると良い。(全体集約)

(ウ) 働くことの意義と、ピアサポーターがいることの意義についての意見

誰もが人として働く意義について考え、協働する効果を前面に押し出すテキスト作成を(するとよいのではないか。たとえば演習としては以下のような構成はいかがか)。**【演習】**①「ピアサポーターや専門職として、その役割で働く上での葛藤や困難」②「ピアサポーターがいることで職場にもたらす効果」「協働する意義」について考える。(精神)

(エ) その他

ここは以前の試行事業では当事者+専門職のミニシンポジウムだったと思うが、開催要項にはその事が書いていない。講座7)は当事者+専門職となっており、自分の自治体で講座説明を担当する時に、当事者だけ、当事者と専門職両方という記述の食い違いで戸惑った。(精神)

4) 障害者雇用+演習②(障害者雇用の実際と留意点)

障害者雇用について伝えたいのか、何を伝えようとしているのか整理が必要との意見があった。また、それにも関連して、シラバスで求められていることとテキストの内容に相違があることの指摘があった。

シラバスで求められていることと、テキストの内容に相違がある。障害者雇用の知識は必要だが、障害者雇用=ピアサポーターの雇用と誤解されないようにする必要がある。(全体集約)

障害者雇用の講義であるのに、職場環境や合理的配慮について考える演習になっていて講義と演習がミスマッチしている。そもそも何のためのコマなのかの整理が必要。テキストとスライドは、障害者雇用で、演習と乖離している。シラバスでは、その事業所がピアサポーターを評価する点について述べられているが、知識の比重が大きい。障害者雇用の知識は必要だが、イコールピアサポーターという誤解が生じる可能性、ピアサポーターが専門職の下請けになってしまうリスクがあるのではないか。(精神)

【演習の提案】障害のある・なしに関わらず、職場のスタッフ全員が働きやすくなる環境を作るためには、どのような取り組みが考えられますか？(精神)

講義内容は「障害者雇用」なのか？法定雇用率が必要かどうか 難病は手帳に該当しないためかなり厳しい状況にある(難病)

受講者の状況がそれぞれ異なるので講義が難しい印象がある。具体的な例を示すと良いのではないか。たとえば、身体障害領域では職場介助者や駐車場などの障害者雇用支援があるが精神障害領域では雇用支援がなかったり、雇用されるとB型などを利用できずフルタイムで働くこともできず日中の行き先がなくなるなどの、身近な例が出ると良いのではないか。(身体)

5) ピアサポーターとしての継続的な就労(ピアサポーターとして能力を発揮し働き続けるために必要なポイント)

ピアサポーターとして就労することについての環境整備などについて話すとはよいのではないかと意見があった。また、シラバスには演習がないが、演習があった方がよい、あるいは演習についての整理が必要との意見があった。

(ア) ピアサポーターとして継続的に就労することについての話をするとよい

継続的な就労を行うためには、配慮も必要で、病気を明かして通院などもしやすい環境を整えることで、はじめて継続的な就労は可能になると思われるが、なんでも話しやすい職場作りのためにどうするかなども考えたい(難病)

障害者雇用とピアサポーターの雇用を一緒に話しているような演習の状況もあるので、そのあたりをしっかりとこの講座のあたりで説明してもいいのではないか。障害者雇用に限らず、環境調整で使えるもの(ハード面も)もあるということにもっていくような工夫もあるとよいかもしいない。ピアサポーターの雇用についての話をして、その中に障害者雇用もあるというような話にするのもよいのかもしれない。雇われる人、ピアサポーターとして働く人はこういったことを知っている必要があるだろうが、いろいろな人が受講している(精神)

復職/転職等の際に会社がしてくれた配慮や、その経緯で誰とどう交渉/調整したかといった情報を紹介でき、一般企業でフルタイムで働く障害当事者としての経験も役立てられる講義だと

感じる。(高次脳)

(イ) 演習についての整理をするとよい

シンポジウム形式で具体的な例が聞けるので良い。講義を聞いて、自らを振り返るなど短時間でも演習があった方がよい。(身体)

シラバスには演習がないが、テキストには演習の記載があるので、整理が必要か。(精神)

国の研修では講義+意見交換(実施的な演習)を提案しているので、その通りで良いのでは。時間を短縮してもいいのではないか。(精神)

有馬さんや大船さんなどの仮名で混乱される方もいた。Aさん、Bさんなどの表記に変更するか。生の声を重視したいところ。事例は必要、事例のポイントをスリム化するか。(精神)

6) ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法+演習③

(職場内や関係機関との連携の中で発信力を高めることによる専門性の発揮方法、事例検討等を通じて体感する)

演習の事例について参加者が理解することが難しいこと、そのためになされている工夫についての意見がさまざまにあった。

(ア) 演習の事例をより伝わりやすくするために

- 事例の紹介に寸劇を用いるなどもよいのではないか。
- 固有名詞やサービス名をテクニカルな対応ができれば。登場人物を相関図でしめすと良いのではないか。テキストにあるエコマップよりもさらにわかりやすいものがあるのか。
- 講座5と同様で、仮名をどうするかを検討が必要。
- また、地域活動支援センターや就労定着支援の理解に引っ張られ、内容が入ってこないという受講者の声も。
- 事例が導きづらく、分量が多く読み込めないという意見も受講者からあった。サービスを加算対象に変更するか内容を簡素化することも検討する必要がありそう。
- 自治体によってはワークシートが活用されていた。
- 登場人物紹介で色を変えたシールを使ってみた。
- 簡素化して説明すること、相関図の作成などを行っている。
- 事例を解説入りで読み上げた。

- 施設名と個人名の固有名詞がそれぞれあって、それらを結びつけて把握するのは難しいので、主人公2人(ご本人とピアサポーター)以外は、簡略化するような感じで考えている。漢字の読み方が難しい部分もある。(精神)
- 分かりやすい事例とするために、エコマップなどを作成する、わかりやすく図式化する(難病)
- 事例検討については、高次脳機能障害においては登場人物の相関関係やプロフィールを覚えられないため、ある自治体では「登場人物シート」を作成して、手元に置いてみながら事例検討に臨めるように工夫している。もしかしたら他障害(知的や精神等)の方にも有用かもしれない。(高次脳)
- 事例検討の際、障害や内容によっては視覚化・図式化するなどの配慮が必要となることがある。ただし、その内容(情報量など)や使い方(提示の仕方やタイミングなど)については検討する必要がある。(高次脳)

(イ) 演習のねらいについて

事例を検討するよりも事例を題材にして様々な職種や立場の視点があることを理解することを重視している。相手が何を言っているのかということも整理することも重視しつつ、その中でピアの視点で話せたかということも話している。(精神)

事例の登場人物などを簡素化した方がいいと思うが、Aさん、Bさんとそこにいる感じがしないというような思いもあった。自治体で話してもらって変更してもらってもいいのではないか。(精神)

講師は受講生のピアの視点に留意する必要がある。(身体)

地域でピアサポーターが実践だけでスキルアップするのは難しい。事例検討の感覚を研修の中で味わってもらいたいという気持ちがある。自分の気持ちをきちんと伝える、自信をもって代弁できるような演習になればと思う。(精神)

参加者の意見だけでなく、参加者に伝えるべきことを伝えるということも大切。演習で、ご本人に寄り添うような想像力を働かせる演習、専門職も専門職としての意見をだしてもらって、それぞれの違い、コントラストが出てもらえれば。(総合集約)

手立ての部分もピアならではのものを出してもらいたい。専門職も専門職ならではの手立てを出してもらいたい。(総合集約)

協働といってきたが、本人のためになるなら対してもいいのではないか。専門職批判をするようなピアの人も本人が気づくような演習になったらいいと思う。事例を通して、あたかもそこに自分がいるように参加できれば効果も大きいのではないか。ご本人がいない会議でもしっかり、あたかも本人がいるかのようにぶれないでピアサポーターが発言していくためのきっかけになれば。そして本人のためになることをみんなで考えられれば。(精神)

(ウ) その他

時間としてあと20分くらいあれば十分いけると思う。(総合集約)

**7) ピアサポーターとして現場で効果的に力を発揮するための準備+演習④
(ピアサポーターとして雇用される上での準備、留意点)**

演習のテーマが多いため、その整理が必要、あるいは講義と演習の時間配分の検討が必要という意見があった。

(ア) 演習についての意見

演習は未来にむけて希望にあふれていて良いと思う。(身体)

この科目は振り返り科目となっており、整理が必要か。要点を絞るまたは基礎・専門・フォローアップの各科目内に入れ込むか。【演習】演習は良いのだが、シートに落とし込んでいくには、時間が足りなかった。講義 20 分、演習 50 分の時間配分でも良いのではないか。(精神)

演習内容の整理が必要そう。グループ演習でテキストに1~4まであるが、多いのではないか。1の原点は大事、フォローアップ研修では働いている人という想定になるのかと思うが、明日から何を実践していくかという感じでしめてもいいのかなと思う。リカバリーという言葉は全障害的には違う言葉をつかってもいいのかなと思った。(精神)

(イ) その他

スライド内容としては一人で担当可能なものが、当事者+支援者で行うことと指定されており、当事者として支援者と分担した時戸惑った。(精神)

普及協会のスライドが図が多く、説明が難しい。独自で作成する場合、講師によってわかりやすさが分かれてしまう課題がある。

E. 考察

本研究では、障害者ピアサポーター研修のうちフォローアップ研修についての意見を聴取し、集約した。

フォローアップ研修については、自治体により開催方法や内容、参加者数、参加率にばらつきがあることがわかった。また、フォローアップ研修をどのように位置づけるかによっても講座内容の検討が異なることが示唆された。

今後予定しているフォローアップ研修を実施している自治体等へのヒアリング調査において、運営視点での意見の聴取・集約を進めていく。また、今後フォローアップ研修の位置づけを検討する際には、ピアサポーターの専門性を担保し高めるための仕組みとなることを意識して検討するよう留意する。

本研究は、さまざまな障害を有する人々やその所属団体、自治体など多くの関係者の協力を得て行っており、その議論を通じて、ただ一つの正解がないことをあらためて感じさせられている。

F. 健康危険情報

無

H. 研究発表

無

I. 知的財産権の出願・登録状況

無

J. 文献

岩崎香, 秋山剛, 山口創生, 他: 障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修の構築. 日本精神科病院協会雑誌 36:990-995, 2017

岩崎香(研究代表者). 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業. 障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に係る講師を担える人材の養成及び普及のための研究 2018(平成30)年度, 2019

岩崎香(研究代表者). 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業. 障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に係る講師を担える人材の養成及び普及のための研究 分担研究報告

書:ピアサポートの専門性を高めるための研修を担う人材育成のためのプログラムの構築(分担研究者宮本有紀) 2020(令和2)年度, 2021

岩崎香(研究代表者). 厚生労働省障害者総合福祉推進事業. 障害者ピアサポーターの支援内容や配置状況の実態把握及び多様な障害者の参加を想定した障害者研修におけるツールの作成のための調査研究. 障害のある人との研修を企画運営する上での合理的配慮. 2022(令和4)年度, 2023

<https://www.mhlw.go.jp/content/001146680.pdf> (詳細版)

<https://www.mhlw.go.jp/content/001146679.pdf> (ハンディ版)

岩崎香(研究代表者). 厚生労働省障害者総合福祉推進事業. 「障害者ピアサポート研修事業における障害当事者の参画の実態把握及び方策についての調査研究. 障害者ピアサポート研修事業ガイドブック. 2023(令和5)年度, 2024

<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001282757.pdf>